

【考察】

【1学期と2学期自己評価結果から 次年度に向けた 改革を目指して】

1.達成率の高い項目

No.	項目	評価				1学期 達成率		2学期 達成率	
		4	3	2	1				
1	問題行動等が発生した場合、職員相互がチームにより対応し、管理職への報告・相談等を行いながら、早期解決に努めた。	15	5	0	0	93.8%	↗	95%	生徒指導体制 連携の継続・強化
2	HP・学校便り・学年だより・保健、給食だよりなど学校広報が進んだ。	11	7	1	0	88.2%	↗	90%	HPの整備 具体的方策をどうするか？
3	特に課題を抱えた生徒に関する情報は、学校職員の共有すべき情報として伝える、相談するなどの「つなぎ機能」をよく果たした。	10	10	0	0	87.5%	↗	90%	
4	特別支援教育のための校内委員会が機能し始め、個別の支援が進んだ。	11	6	2	0	86.8%	↗	100%	個別の支援計画、指導計画の作成
5	組織の円滑な運営のために、学年を越えて声を掛け合うなど、「つなぐ」意思疎通を図った。	11	6	2	0	86.8%	↗	100%	
6	自分は特別な支援を必要とする生徒に対して、授業の中で配慮を行った。	10	7	2	0	85.5%	↗	90%	特別支援 指導の継続 体制整備
7	市予算の財務は、学校教育目標具現化に向けて適正執行できている。	9	7	2	0	84.7%	↗	100%	市、PTA予算の適正執行 執行率の確認
8	教育活動全体を通して、生徒の豊かな心を育む努力をした。	8	7	2	0	83.8%	↗	95%	道徳教育の充実 全体計画・年間指導計画の整備、修正
9	学年や学級の課題を明らかにし、改善するための工夫を行った。	8	9	2	0	82.9%	↗	95%	
10	生徒に自律的な規範意識を育てるよう、学年、学級、分掌等での活動推進に努めた。	8	10	2	0	82.5%	↗	90%	話し合い活動 言語活動の充実継続

2.達成率の低いもの

1	郷土の偉人や業績、地域の歴史を自ら学び、小中連携に積極的に携わった。	3	3	8	3	58.8%	↗	70%	布佐カリキュラム 公開研にむけた取り組み
2	ボランティア活動等の地域貢献により自己肯定感の高まる活動を推進した。	2	6	7	2	61.8%	↘	45%	地域貢献活動の具体的取り組み
3	生徒活動を基盤とした地域貢献活動を推進した。	0	10	5	2	61.8%	→	65%	生徒会活動等と地域貢献 具体的取り組みは？
4	特別な支援を必要とする生徒について医療、福祉(児相など)関係機関との連携が図られた。	4	6	5	3	65.3%	↗	80%	特別支援教育 校内委員会の充実
5	同一教科による学年間をつないだ言語活動強化の見直しを行った。	4	4	10	0	66.7%	→	65%	年間指導計画の整備・修正、確認等
6	特別な支援を必要とする生徒について個別指導計画や個別の教育支援計画が適切に作成された。	3	10	5	1	69.7%	↗	90%	特別支援教育に関する校内研修会の実施
7	読書・読書活動の推進をした。	5	6	6	1	70.8%	↘	35%	学校図書館 読書活動の推進 朝読書の継続
8	PTA活動の内容を理解し、積極的に取り組んだ。	5	7	6	1	71.1%	↘	60%	校内美化活動への参加
9	ファシリテートに努力し、授業の中でワークショップ等の形態をとり、言語活動充実のための取り組みを工夫した。	4	10	4	1	72.4%	↗	80%	校内研修会の実施
10	道徳で培った道徳的判断力を、生活や他の教科の中で生かそうとした。	4	8	5	0	73.5%	↗	85%	道徳 全体計画と年間指導計画の実施と道徳的実践力

3 来年度の取り組みの重点項目、修正事項の確認

1	郷土の偉人や業績、地域の歴史を自ら学び、小中連携に積極的に携わった。	→ ふさカリキュラムの整備・推進をすすめる
2	ボランティア活動等の地域貢献により自己肯定感の高まる活動を推進した。	→ 地域貢献活動の推進のための具体策は何か？
3	生徒活動を基盤とした地域貢献活動を推進した。	→ 自己肯定感を高める活動の具体化のための取り組みは？
5	同一教科による学年間をつないだ言語活動強化の見直しを行った。	→ 言語活動の充実にむけた教科部会の活性化をどうするか？
7	読書・読書活動の推進をした。	→ 読書活動の充実にむけた具体的な取り組みをどうするか？
8	PTA活動の内容を理解し、積極的に取り組んだ。	→ PTA活動のPR広報、職員への周知と参加方法の検討が必要